

農林技術会議
指 導 資 料
平成10年3月

スギカミキリ防除マニュアル

—スギカミキリの生態と防除—



千 葉 県
千葉県農林技術会議

まえがき

昭和55年5月、NHKが放映したドキュメンタリー番組「森が死んで行く」(50分番組)は、関西地方を中心にしたスギ、ヒノキ林のスギカミキリ被害を報じたものであったが、スギ、ヒノキ林が「松くい虫」被害の二の舞いになるのではないかと、本県の農林業関係者にも大変大きなショックを与えた。その結果、いくつかの予備調査を経て、県は、昭和61年度から3年間農林部林務課を中心に全県下で700点余の調査地を設けて大規模な被害率調査を実施したが、幸いなことに被害率は非常に小さなものであった。しかし、その後、サンプスギにスギ非赤枯性溝腐病が多発し、それを嫌って造林には実生系のスギやヒノキが多く使用されることになったが、それらも10年以上を経過することとなり、今度は地域によってはスギカミキリの被害が目立つようになっている。

スギカミキリの被害は、全県的にみれば現在でもまだ少ないが、このままで行くと手入れ不足の山林の増加とも相俟って21世紀には著しく増加してくることが懸念される。

本マニュアルは農林家の皆様に早めにスギカミキリ対策を取っていただくための指針になればと編纂したもので、山林経営の一助になれば幸いである。

平成10年3月

千葉県農林技術会議
技術調整部会長

目 次

千葉県におけるスギカミキリの生活史	1
千葉県におけるスギカミキリの分布	2
スギカミキリ成虫の形態及び生態	4
スギカミキリ幼虫の加害形態と被害の見分け方	4
スギカミキリの防除	6
粘着剤を使用した防除とその効果	7
参考資料	10



写真 - 1 横筋の幼虫食害痕()



写真 - 2 縦の筋状巻き込み()



写真 - 3 幹の凹凸、亀裂、虫糞、腐朽()

幹表面の症状

林内では様々な加害の段階が見られる。被害はローマ数字の から の順序で進行する。



写真 - 4 スギカミキリ成虫（左： 通常型、右： 無斑紋）



写真 - 5 脱出孔

スギカミキリの被害を確定する脱出孔

スギカミキリの被害を外観から判断する場合、最終的には脱出孔の有無で判断する。脱出孔は通例 9 mm × 5 mm 位の楕円形または角の取れた長方形をしていて、非常に特徴がある。



写真 - 6 樹皮下食害痕（スギ）



写真 - 7 材内の蛹室と腐朽部分
(左の材を二つに割って開いたところ)



写真 - 8 幼虫

幼虫が木に被害を与える

幼虫は樹皮下を激しく食害する。蛹室は深さ3 cm位のところに作られるが、出入口は一つである。樹皮下の食害部及び蛹室から変色が広がっていて材が腐朽していることが分る。